

平成22年度 奈良工業高等専門学校公開講座

## 日本文学講座 奈良1300年の文学

場 所：奈良工業高等専門学校

対 象：一 般

定 員：40 名

受講料：無 料

内 容：全3回（1回分または2回分のみの受講も可能です）



第1回 7月23日(金) 10:00~11:50

森鷗外「奈良五十首」を読む 平城宮跡・正倉院など（<sup>せた</sup> <sup>かつひろ</sup> 勢田 勝郭 一般教科教授）

大正6年、帝室博物館総長兼図書頭となった鷗外・森林太郎は、以後毎年秋、奈良に出張滞在し、その間に詠んだ短歌を「奈良五十首」として発表しました。彼の出張の主たる仕事は、正倉院御物の保存・管理ですが、平城宮跡にも深い関心を寄せ、「なかなか定政賢しいにしへの奈良の都を紙の上に建つ」と、地元の先駆者・北浦定政を称える短歌も残しています。その「奈良五十首」を、皆様と一緒に読んでみたいと思います。

第2回 7月30日(金) 10:00~11:50

奈良と近代文学（<sup>たけだ</sup> <sup>みつひろ</sup> 武田 充啓 一般教科教授）

奈良の文学といえば、誰しもまず『万葉集』をはじめとする上代の作品を思い浮かべますが、近代文学においても、志賀直哉、亀井勝一郎等、奈良にゆかりの文学者や、奈良を舞台とする作品は、多く存在します。それらを紹介しながら、その一部を読んでみようと思います。

第3回 8月6日(金) 10:00~11:50

万葉集に見る「奈良の都」（<sup>かぎもと</sup> <sup>ゆり</sup> 鍵本 有理 一般教科准教授）

奈良時代に作られた万葉集には、平城京に関する歌が多く収められています。平城京遷都のことを詠んだ歌はもちろん、都を遠く離れた土地、あるいはのちに都となった恭仁京において、平城京を懐かしんで詠んだ歌など、その内容はさまざまです。そのような歌を実際に味わいながら、万葉人の抱く平城京への思いについて考えることとします。

### お申し込み方法:

受講希望講座名(「日本文学講座」で可、受講する回を「全3回」あるいは「第1回、第3回のみ」等と記入)、**受講者氏名**・住所・電話番号を必ずご記入の上、**電子メール**または**往復ハガキ**、FAXにて、**7月9日(金)**までにお申し込み下さい。

〒639-1080 大和郡山市矢田町22番地

奈良工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0743-55-6013

FAX : 0743-55-6019

e-mail : s-soumu@jimu.nara-k.ac.jp

なお、公開講座申し込みによる個人情報、厳重に管理するとともに、本校公開講座の連絡以外の目的では利用いたしません。

また、数日経っても受付の連絡がなければ不着の可能性がありますので、お手数ですが、電話にて、確認の御連絡をお願いします。